

ふじ いけ よう た ろう  
**藤池陽太郎**さん

大学院専門職学位課程  
小学校教員養成特別コース3年

昭和63(1988)年、加古川市生まれ。平成24(2012)年、京都外国語大学を卒業し、大学院に入学。昨年6月、日本人学生と留学生の親睦を目的に企画した「Intercultural Projects」が学内の「課外プロジェクト」に選ばれ、バーベキューやクリスマスパーティー等の国際交流イベントを主催している。



◎課外プロジェクトとは  
学生の自主的な取り組みに対し活動資金を支援する学内制度。平成26(2014)年度は藤池さんの「Intercultural Projects」など、5件を採択した。

**キラリな人**  
SHINY PERSON

**留学生には  
いい思い出を  
たくさん  
つくってほしいです**

「課外プロジェクト」の支援を受け、昨年8月から月1回、日本人学生と留学生の交流イベントを主催している。「学部生はクラブやバイトに追われ、留学生は同僚で集まりがち。同じキャンパスにいるのだから、互いに学び、視野を広げる機会があればと考えました」

子どものころから「人とつながることが好き」と言う。京都外国語大学時代にはパリへ留学し、さらにアフリカでの学習支援ボランティアに参加したが、「意気込んだものの、学生でできることは限度があります。教育に関する知識や経験が必要だと痛感しました」。

苦い思いを胸に、小学校教員への道を考え始めた4年生の夏、加古川市で保育所を運営する両親から「手伝ってほしい」と声が掛かる。初めて保育現場を体験し、保育所は人と人とのつながりを育む、地域の中心的存在であると感じた。「お迎えの時間になると、あちらこちらで会話が弾みます。学校や保

育所といった子どもが集まる場所が活気づくほど、地域の元気につながると思えました」

将来の目標を「小学校教員を10年務めた後、保育所を継ぐ」と定め、平成24(2012)年には大学院に入学。1年次から留学生のチューターとして活動する中で日本人学生と留学生の接点の少なさに気づき、プロジェクトの申請に踏み切った。「私はフランス人の友人に親切にしてもらい、充実した留学生生活を過ごせました。兵教大の留学生にも交流を通してたくさんの思い出をつくってほしいのです」

イベントは会を重ねるたびに参加者が増え、来年度の活動は新サークル「H-C(Hyokyo International Club)」に引き継がれることになった。「最近では下級生が進んで準備してくれるようになり、安心して託せます。人と人をつなぐ場をつくるという今回の経験は、私自身の将来にも必ず生かされると思います」